

高木新治 議員
夢みらいクラブ



栄養学の父、
佐伯 矩博士の
顕彰を！

問

本市氷見地区出身の佐伯矩博士の生誕150周年を記念してシンポジウムが開催されるが、どのように市民へ周知し、参加を促していくのか。

また、関係人口・交流人口を増やすために、博士の育った伊予市や東京都大田区にある佐伯栄養専門学校との連携は考えているのか。

答

シンポジウムの周知については、市のホームページへの掲載、SNSなどでの発信のほか、共催事業機関である愛媛県生涯学習センター及び西条市文化会館を通じた情報発信、ちらしの配布などにより、市内外へ周知することとしている。

また、佐伯博士の育った伊予市との連携を模索、検討しており、更に、佐伯栄養専門学校とも開催に向けて必要な資料の借り入れなどについて協議を進めている。

三浦 颯 議員
夢みらいクラブ



就農潜在層獲得へ
外部との連携の
考えは？

問

農業界への参入に対しては、就農地に迷う、地域に溶け込めるか分からないといった不安が障壁となっている中、令和7年度に、民間企業が主体となり、本市において、農業、地域、人を知ることが出来る現地研修が実施された。外部との連携による就農潜在層の獲得は、持続的な農業の担い手の確保につながると実感したが、今後、このような外部関係機関と連携した取組の可能性について、どのように考えているのか。

答

農業は本市の基幹産業であり、その持続的発展のためには、次代を担う若い農業者の確保が不可欠である。今後も、民間企業を含む関係機関との連携の可能性も視野に、新規就農者の育成と担い手確保に積極的に取り組み、本市農業の更なる発展に努めていきたい。

城戸 力 議員
公明党西条市議団



学校現場における
生成AI活用への
スキル習得は？

問

文部科学省のガイドラインでは、学校現場における人間中心の生成AIの活用を挙げているが、人間中心の生成AIの考え方と、生成AI時代に適応する新たなスキルや知識を習得するリスクリングとの関係性をどのように考えているのか。

答

教育現場での生成AIの活用については、情報化推進委員会を中心に協議・研究を進めている。ガイドラインが掲げる人間中心の生成AIの活用とは、AIが作成した教材や情報について、教職員自らが専門的知見に基づいて検証・編集し活用することであると考えている。生成AIの活用に関する明確なルールやガイドラインの整備が不可欠であると認識しており、教育現場で活用しやすい独自のガイドライン策定に向け検討を進めている。

高橋 淑子 議員
公明党西条市議団



悲しみに寄り添う
周産期グリーフケア
の相談体制確立を！

問

周産期を含めて子どもとの死別は悲嘆が強いが、母親の精神的な負担を軽減するための相談体制はどのようになっているのか。

答

本市では現在、特別な相談窓口は設けていないが、子ども家庭センターの妊婦等包括相談支援事業において、保健師などが妊娠後期の全ての妊婦へ電話連絡を行う中で、相談を受け、支援するケースがあった。本人が相談したいと思ったときに相談窓口や関連する支援サービスの情報を適切に入手できるように、市のホームページに専用ページを設けることを検討するとともに、女性のウェルビーイングの向上につなげるため、先般開設した西条市民のための健幸サイト及びインスタグラムMs・SAIJO（ミズサイジョウ）の活用を検討したい。